

令和7年度シラバス

23 新潟県立西新発田高等学校

教科	理科				
科目	科学と人間生活	単位数	2	単位	履修年次
					1 年次～
使用教科書	科学と人間生活（東京書籍）				
副教材等	新課程 ニューサポート 科学と人間生活（東京書籍）				

1 グラデュエーションポリシー及びカリキュラムポリシー

グラデュエーションポリシー	<p>卒業までにこのような資質・能力を育成する。</p> <p>①規則正しい生活習慣を確立し、前向きに社会生活に取り組む資質を育成する。</p> <p>②主体的に行動し、コミュニケーション能力が高い人間を育成する。</p> <p>③他者を尊重し、様々な課題を持つ人との関わりを大切に地域に貢献できる能力を育成する。</p> <p>④どのような困難にも立ち向かい、適応できる人間に育てる。</p>
カリキュラムポリシー	<p>資質・能力を育成するため、このような教育活動を行う。</p> <p>①毎日学校に通うことを目標に、生活リズムを崩さない行動を促す。</p> <p>②日々の挨拶や、ルールやマナーを意識した学校生活を行う。</p> <p>③他者の立場を尊重し、思いやりや寛容の精神を育成するため、人権同和教育に力を入れる。（年3回以上はクラス単位での授業を行う）</p> <p>④総合的な探究の時間において、1年次から系統的なキャリア教育を展開する。</p>

2 学習の目標

<p>①自然と人間生活との関わりや科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解し、知識や実験などの技能を身に付けるようにする。</p> <p>②観察、実験などを通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できるようにする。</p> <p>③科学技術が人間生活に果たしてきた役割について興味・関心を持ち、意欲的に探究する態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>①科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。</p> <p>②身近な自然の事物・現象及び日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。</p>
--

4 学習計画

学期	単元名	教材	学習内容(指導内容)	時間	評価方法
前期	第1編 生命の科学	教科書 授業プリント	生物と光の関係や人の視覚について学ぶ。 微生物の特徴や人間生活との関わりについて学ぶ。	20	取組状況 課題 提出物 定期考査
	第2編 物質の科学		材料とその再利用について学ぶ。 繊維や食品の化学について学ぶ。	15	
後期	第3編 光や熱の科学	教科書 授業プリント	光の性質とその利用、熱の性質とその利用について学ぶ。	20	取組状況 課題 提出物 定期考査
	第4編 宇宙や地球の科学		身近な天体と太陽系について学ぶ。 身近な自然景観と自然災害について学ぶ。	15	
計				70	(50分授業)

5 課題・提出物等

実験・実習のレポートや課題の提出。授業ノートの提出。課題プリントの提出。

6 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
自然と人間生活との関わりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、観察、実験などを通して理解し、知識を身に付け、実験などの基本操作などを習得している。	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について問題を見だし、観察、実験などを通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について興味・関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な考え方を身に付けようとしている。

7 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
【評価】 考査や課題・提出物等の「知識・技能」の 得点率が70%以上・・・A 得点率が40%以上・・・B 得点率が40%未満・・・C	【評価】 考査や課題・提出物等の「思考・判断・表現」の 得点率が70%以上・・・A 得点率が40%以上・・・B 得点率が40%未満・・・C	【評価】 取組状況や課題・提出物等の「主体的に学習に取り組む態度」の 達成率が70%以上・・・A 達成率が40%以上・・・B 達成率が40%未満・・・C

8 担当者からの一言

人間生活と科学（物理学・化学・生物学・地学）は密接に関わっています。その関わりがわかってくると、普段の何気ない生活が充実したものに感じられます。「へえ～、そうなんだあ」ということばを大切にしながら授業が展開できたらいいと思います。